

# 令和 3 年度事業計画書

(令和 3 年 3 月 1 日から令和 4 年 2 月 28 日まで)

## ＜令和 3 年度の活動指針＞

- ① 将来構想委員会の提言「持続可能で活発な日本油化学会への脱皮」の実現を目指す。そしてオレオサイエンスを通してコロナ禍の時代を良い方向に導くことができるよう、学会としての使命を果たす。
- ② 研究成果を討論する年会では、オレオサイエンスに関わる最新の研究成果と産業界が求めるニーズを的確に情報交換できるよう務める。第 60 回年会の実行委員長は瀨瀨守副会長が務め、9 月 6(月)～11 日(土)に岐阜大学(岐阜県・岐阜市)で開催する。Web 開催の場合は、特別講演・シンポジウム講演・質疑応答等にライブ配信の技術を取り入れて十分なコミュニケーションができるようにする。本会の開催方式は 3 月理事会で決定する。
- ③ また、創立 70 周年記念事業として令和 4 年に釧路で開催することを決めた 第 2 回世界オレオサイエンス会議(The 2nd World Congress on Oleo Science, WCOS 2022)は、Face-to-Face で開催することを目指す。海外からの来日参加が困難になる状況に備えて Web 方式を併用したハイブリッド開催の準備を進める。なお現準備委員会は組織を改め実行委員会とし、開催方式とプログラムの決定を行い運営に当たる。委員長は朝倉現委員長が務める。
- ④ 教育面では、若手会員の能力向上と会員増強を目指して従来から行っているフレッシュマンセミナー、実践講座、試験法セミナー、サマースクールなどのセミナーを、コロナ禍の時代に即した受講・質疑・交流ができる Web 形式に整え、より魅力的で受講しやすい内容とする。さらに、年会における若手研究者の表彰などを通じて、学生や若手研究者の育成を図る。
- ⑤ オレオサイエンスの深耕と普及に関する事業は、これを担う専門部会と支部で講演等の事業活動ができるよう、Web システムを整備する。
- ⑥ 学術論文誌 Journal of Oleo Science (JOS)は、前年度採択された J-STAGE 主催“ジャーナルの質を高めるコンサルテーション”の指摘事項(投稿規程の一部修正と、2 次利用著作権の論文表示)を改めて世界的に認められている Dictionary of Open Access journal, DOAJ への掲載を実現して世界一流のジャーナルを目指す。また本年決まる WCOS 選抜講演を論文掲載する等の企画を進めて質の高い研究論文を積極的に集める。会員誌「オレオサイエンス」は、会員に役立つ情報誌づくりを目的に、会員へはもちろん、国内外への敏速な情報発信に努める。
- ⑦ 社会貢献の一環として、一般財団法人油脂工業会館との共催で実施している市民講座(地区講演会)は、本年度も 3 支部が中心となり Web 開催も視野に開催する。

## 1. 会務

### 1.1 総会

代議員を社員とする第 67 回定時総会を令和 3 年 4 月 22 日(木)に油脂工業会館を開催基地として Web 会議システムを併用して開催する。令和 2 年度事業報告(報告事項)、令和 2 年度決算案などについて審議し、令和 3 年度の役員を選任を行う。定時総会終了後、総会報告会を開催し、定時総会および新執行体制について報告する。さらに令和 2 年度日本油化学会の学会賞、進歩賞、ならびに功績賞および女性科学者奨励賞の各賞の表彰等を行う。

### 1.2 理事会

令和 3 年度の理事会の開催予定は 5 回。令和 3 年度の資金運用方針、第 60 回年会と WCOS2022 の開催、令和 2 年度事業報告案および決算案を審議決定する。また令和 4 年度の事業計画および予算を策定し、令和 3 年度諸事業計画の企画・実行、諸規則類の整備・改定等、重要案件を審議決定する。

### 1.3 運営委員会

運営委員会の開催予定 6 回。運営会議は必要に応じて開催する。運営委員会および運営会議は理事会に上程する重要案件について詳細な審議を行うが、さらに日本油化学会の持続的な財務基盤の構築および活動の活発化につながる議論を進める。

### 1.4 業務委員会およびその他委員会

本会の業務を担当する総務、財務、国際交流、オレオサイエンス編集、JOS 編集の各委員会は、それぞれ公益社団法人としての内部体制と諸規則類の整備、収支バランスを踏まえた学会活動の財務的支援、海外の学術団体および工業会などとの共同活動推進、アジア中東地域での No. 1 学術誌を目指した国際情報発信の強化を継続して進める。また、企画・部会統括委員会は本部・支部・各専門部会が企画する講演会やセミナー等の事業の円滑な実施に向け、事業の内容やスケジュールの調整ならびに相互情報交換を進める。

## 2 事業計画

### 2.1 (公1)研究成果の公開、人材教育、研究の奨励及び業績の表彰を行う事業

#### 2.1.1 研究成果の公開

##### (1) 日本油化学会年会等の開催

令和 3 年度第 60 回年会は、瀬瀬守実行委員長(岐阜大学)のもと、岐阜大学(岐阜県・岐阜市)において 9 月 6 日(月)～11 日(土)に開催する。招待講演、受賞講演、一般発表(口頭およびポスター)を行うとともに、専門部会主催のシンポジウム等を行う。

##### (2) 論文誌・会員誌の発行

JOS 編集委員会は、論文誌「Journal of Oleo Science」を 12 号発行する。オープンアクセスとして DOAJ 掲載、早期公開の継続、関連研究者への働きかけ等を通して、会員ならびに国内外研究者からの「JOS」への積極的な投稿を募る。また、オンライン投稿審査システムを基盤に、外国人査読者も増やし、国際的な投稿審査体制の一層の充実を目指す。アジア～中東地区での No. 1 学術誌の地位を確立することを目標に、Impact Factor の向上に努める。そのための方策として、本年決まる WCOS2022 選抜講演を論文掲載するなど特集企画を増やしていく。剽窃チェックシステムや英文校閲を活用し、本誌の品格維持／向上に努める。また、学会、セミナー等で、本誌を展示／広報する機会を増やす。さらに、特に内外の若手研究者の交流・ネットワーク形成等の教育的支援を通し、将来的な JOS の「国際情報発信強化」に繋げる。

会員誌「オレオサイエンス」を 12 号発行する。オレオサイエンス編集委員会は、総説約 35 件からなる特集企画、若手研究者紹介、油脂関連情報、抄録、会務記事など有益情報の早期発信を推進するとともに、学術専門委員会との共同企画の Topics in Oleo Science の継続、会員が参画する紙面の充実など、さらに有用かつ魅力ある会誌づくりに努める。なお、デジタルアーカイブの WEB 公開／環境整備を継続する。

#### 2.1.2 人材教育

昨年は年会にて内容を短縮して開催することになったオレオサイエンスの基礎講座フレッシュマンセミナー「油脂と脂質」と「界面と界面活性剤」は、内容を正規の講義内容に戻し開催する。開催方法は Web 方式とし、開催時期はコロナ禍で遅れる新人配属に合わせて 7 月以降として多くの若手研究者が受講できるようにする。昨年はコロナ禍で開催を見合わせた中堅研究者のための界面実践講座、油脂実践講座、若手研究者・技術者の活発な交流を目的に開催している「若手の会サマースクール」は Web 方式にて開催する。

上記のフレッシュマンセミナー等の本部事業は年 4 回の企画・部会統括委員会の開催により企画、運営を行う。また、各支部、専門部会の事業において、それぞれのリーダーのもと、独

自に運営を行うが、企画・部会統括委員長が年 2 回開催する全体会議でスケジュール調整、相互の情報交換などを行う。

### 2.1.3 研究の奨励・業績の表彰

油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に、著しい成果をあげた研究者を表彰する。本科学分野で著しい成果を上げた研究者へは日本油化学会 学会賞を、そして本工業分野で著しい成果をあげた者へは日本油化学会 工業技術者賞を授与する。若手研究者には論文業績に対して日本油化学会進歩賞を、そして年会での発表業績に対してはヤングフェロー賞、学生奨励賞と、昨年度から英国王立化学会(RSC: Royal Society of Chemistry)のご支援を頂きはじめた国際発信力に優れる研究発表に贈る RSC Advances 賞を本年も継続する。また JOS とオレオサイエンスの優れた論文著者に贈るエディター賞、インパクト賞、ベストオーサー賞、オレオサイエンス賞と、学会への功績者の表彰についても継続する。

### 2.2 (公2)評価・試験法の標準化と普及を行う事業

品質管理や研究開発を担う技術系職員および学生の一般知識の向上と評価・試験技能の向上を目的として、11月に第21回基準油脂分析試験法セミナーをWeb開催し、日本油化学会が制定した試験法の標準化と普及を図る。

### 2.3 (公3)地域における学術の振興と普及を行う事業

各支部による講演会・セミナー等は、Web開催も視野に開催する。また支部活動の一環である(一財)油脂工業会館共催の地区講演会・セミナーを、関東支部は10ないし11月に東京都八王子市で、東海支部は11月に長野県長野市で、関西支部は6月に大阪府柏原市と11月に岡山県岡山市で、それぞれ開催する予定である。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を積極的に行い、地域における学術振興・普及に努める。

### 2.4 (公4)学術専門分野の活性化事業

専門部会活動については、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、ライフサイエンス・産業技術部会、オレオナノサイエンス部会およびマスターズクラブの体制で展開する。日本油化学会活動の基盤は専門部会活動が担うとの共通認識のもと、常に独自性、さらにグローバル視点も意識しながら学術専門分野の活性化・強化に努める。各専門部会は部会長の指導のもと、専門性の追究と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー・講習会等の充実と定着化を図る。マスターズクラブは学際的な視点・分野横断的な視点も加えた活動を展開する。

以上

(444回 理事会決議)